

## 第64回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

JB061CE	中学	生物	埼玉県
学校名	秩父市立高篠中学校		
研究作品タイトル	ニホンアマガエルの拡散と定着 ～校舎北側の研究・2年目～		
研究者氏名 (共同の場合はグループ)	藤井 岳、野澤 倫太郎、金田 季織		
指導教諭氏名	井上 修介		

### 【動機】

昨年、校舎北側に生息するニホンアマガエルの研究を行い、規則正しく木や壁を登り下りして生活していることを発見したが、サイズとの関係については仮設の域をでず、また、春から繁殖期の生活については不明であった。これらの課題を解決したいと考えた。

### 【方法】

5月から毎週、出現傾向に特徴のある4時と13時、22時に校地内に加え、隣接する田畑で計数調査を行い、地上と樹上で分けサイズ別に記録した。22時に捕獲した個体の体長と体重を測定した。フンの中の断片から餌生物の種類を同定した。生体への負荷を配慮して計画した。

### 【結果】

冬眠明けのカエルは少なかった。隣接する田から発生した小カエルは植物のある段差などの立体物にとどまりながら校地内に移動し成長し、減少する様子がわかった。仮設に反し2cm未満でも木に登ることがわかった。多様なサイズや時期の個体のフンに小型のアリと甲虫が含まれていた。

### 【まとめ】

北の田で発生した小カエルが定着し成長するには植物が存在する立体物が重要である。晩秋に向けて数を減らし、冬眠を経て春を迎えることができるのは大きく成長できた数匹であると考えられる。また小さなアリや甲虫は校舎北側の中では万能食といえる。

### 【展望】

ニホンアマガエルは環境適応能力が高いとされているが、定着し、数を増やすことは大変であると感じた。知られざる生態を明らかにすることは将来的な種の保存に役立つはずである。校舎北側をアマガエル観察地のモデルとして学校内外に発信していきたい。